

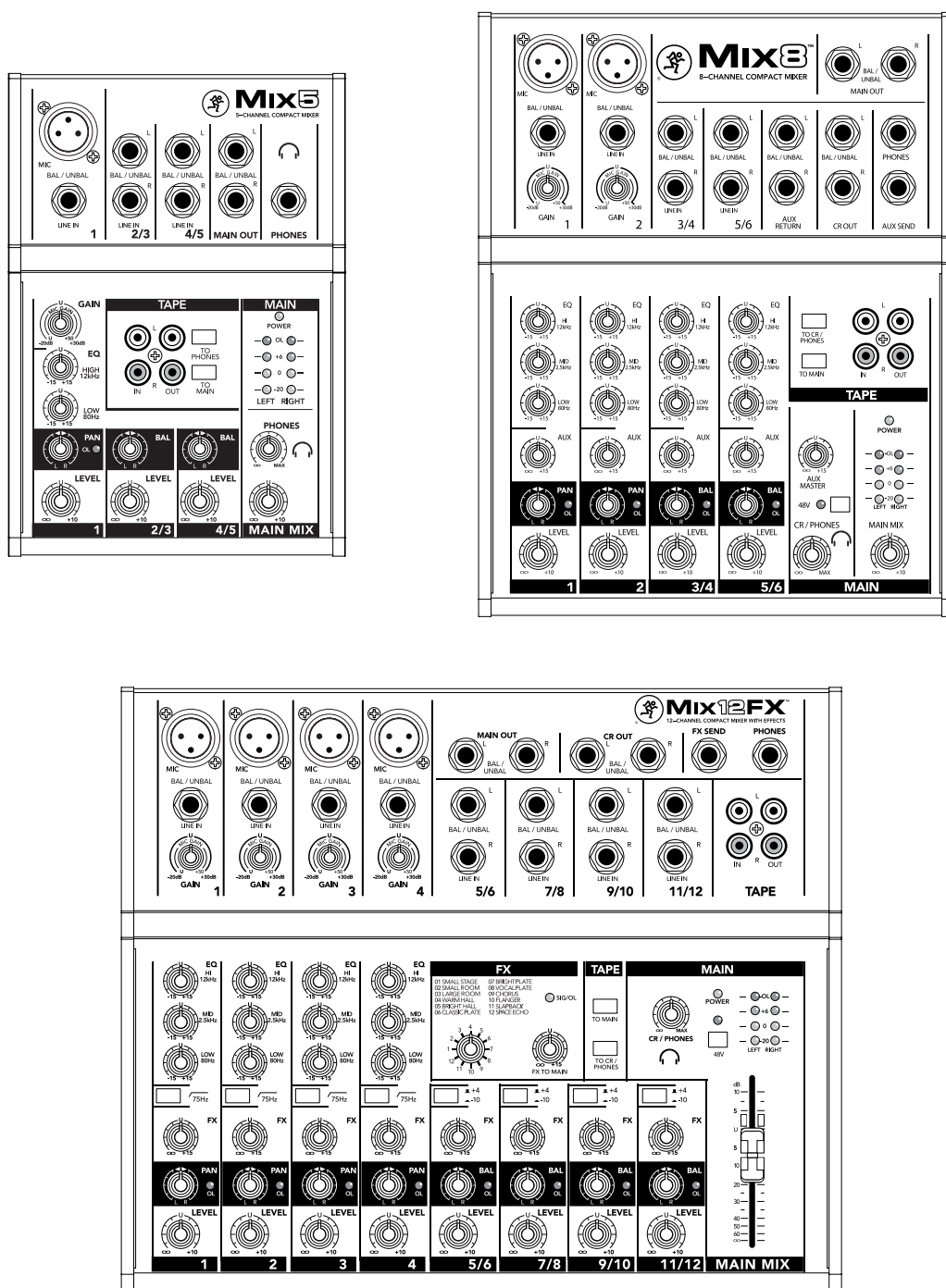


Mix5 • Mix8 • Mix12FX

Compact Mixers

オーナーズ・マニュアル

Ver. 1.0



株式会社 サウンドハウス

〒286-0825 千葉県成田市新泉14-3 TEL: 0476-89-1111 FAX: 0476-89-2222
<https://www.soundhouse.co.jp> E-mail: shop@soundhouse.co.jp

安全上の注意

- ・この製品を使用する前に本書をよくお読みください
- ・本書は必要とときに見返せるよう、大切に保管してください
- ・警告表示には必ず従って、正しくご使用ください
- ・水のかかる場所や湿気の多い場所では使用しないでください
- ・本機を液体のかかる場所に置かないでください。また操作や電源コードの取り扱いは濡れた手で行わないでください
- ・お手入れは乾いた布で行ってください
- ・製品の通気口をふさがないでください
- ・電源を接続する前に、本製品の電圧仕様が使用する地域の電源電圧と一致しているのをご確認ください。適切に設置されたコンセントを使用してください。
- ・雷が接近している場合や、長期間本製品を使用しない場合には、安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください
- ・意図しないトラブルが起こったときのために、電源プラグや電源スイッチを容易に操作できる状態にしておいてください
- ・本製品および電源コード、接続ケーブルを暖房器具やストーブなど、熱を発する機器の近くには設置しないでください。また裸火を近づけないでください
- ・本製品の近くで可燃性ガスを使用したスプレーなどを噴射しないでください。引火のおそれがあります
- ・本製品を移動するときは、電源ケーブル、接続ケーブル等をすべて抜いてから行ってください
- ・電源コードが踏まれたり、挟まれたりしないようにしてください
- ・メーカーが指定した付属品・アクセサリーのみを使用してください
- ・安定した場所に設置し、スピーカースタンドを使用する場合は耐荷重や取り付け方法を確認してください
- ・修理や点検は、必ず専門の技術者にご依頼ください。以下のような場合には、製品の修理が必要です
 - ・液体をこぼした、異物が製品内部に入り込んだ
 - ・落下や踏みつけなどで、本体または電線コードやプラグ等が損傷した
 - ・雨や強い湿気にさらされた
 - ・正常に動作しない
- ・テレビやラジオ、携帯電話の近くで使用するとノイズが発生する場合があります
- ・大音量により聴覚障害を引き起こす可能性があります。また、音量にかかわらず長時間の聴取により継続的に耳に負担をかけ、聴力に悪影響を及ぼす可能性があります
- ・ファンタム電源は対応するコンデンサーマイクのみを使用してください。ファンタム電源スイッチを操作する際は、接続しているアンプをミュートしてください



注意

感電の危険があるため、カバーを取り外さないでください。
修理は必ず専門の技術者にご依頼ください。

※本製品を廃棄する際は、地域で定められたルールに従って処分してください

はじめに

Mixシリーズは品質、堅牢性に優れたコンパクトミキサーです。

高性能マイクプリアンプを搭載し、ソースを問わず高音質を実現。頑丈な金属製ボディーと高品質のパーツを採用することで優れた耐久性を実現しています。操作性にも優れ、直感的な操作で簡単に求める音を作り出します。

特徴

- ・ 高いヘッドルームと低ノイズパフォーマンスを実現するコンパクトミキサー
- ・ スタジオ品質のマイク/ライン入力
- ・ クリーンで正確な音作りが可能なマルチバンドEQ
- ・ バン、レベル、クリップインジケーター
- ・ ファンタム電源搭載
- ・ Low Cutフィルター (75Hz) [Mix12 FX]
- ・ ステレオ1/4"ライン入力を複数装備
- ・ +4/-10 dB、バランス接続 [Mix12FX]
- ・ Auxセンド×1、ステレオ1/4"Return [Mix8]
- ・ リバーブ、コーラス、ディレイを含む12タイプの高品位エフェクトを搭載 [Mix12FX]
- ・ 再生/録音用機器を接続するステレオRCA入力
- ・ メインL/R 出力
- ・ ヘッドフォンアウト
- ・ ステレオコントロールアウト[Mix8 / Mix12FX]
- ・ 頑丈で耐久性にも優れたデザイン

この取扱説明書の使い方



このアイコンは特に重要、あるいは独自の情報を示す際に使われています。



より詳細な情報の場合、顕微鏡のアイコンを使っています。また実用的なヒントの説明も含んでいます。

クイックスタート

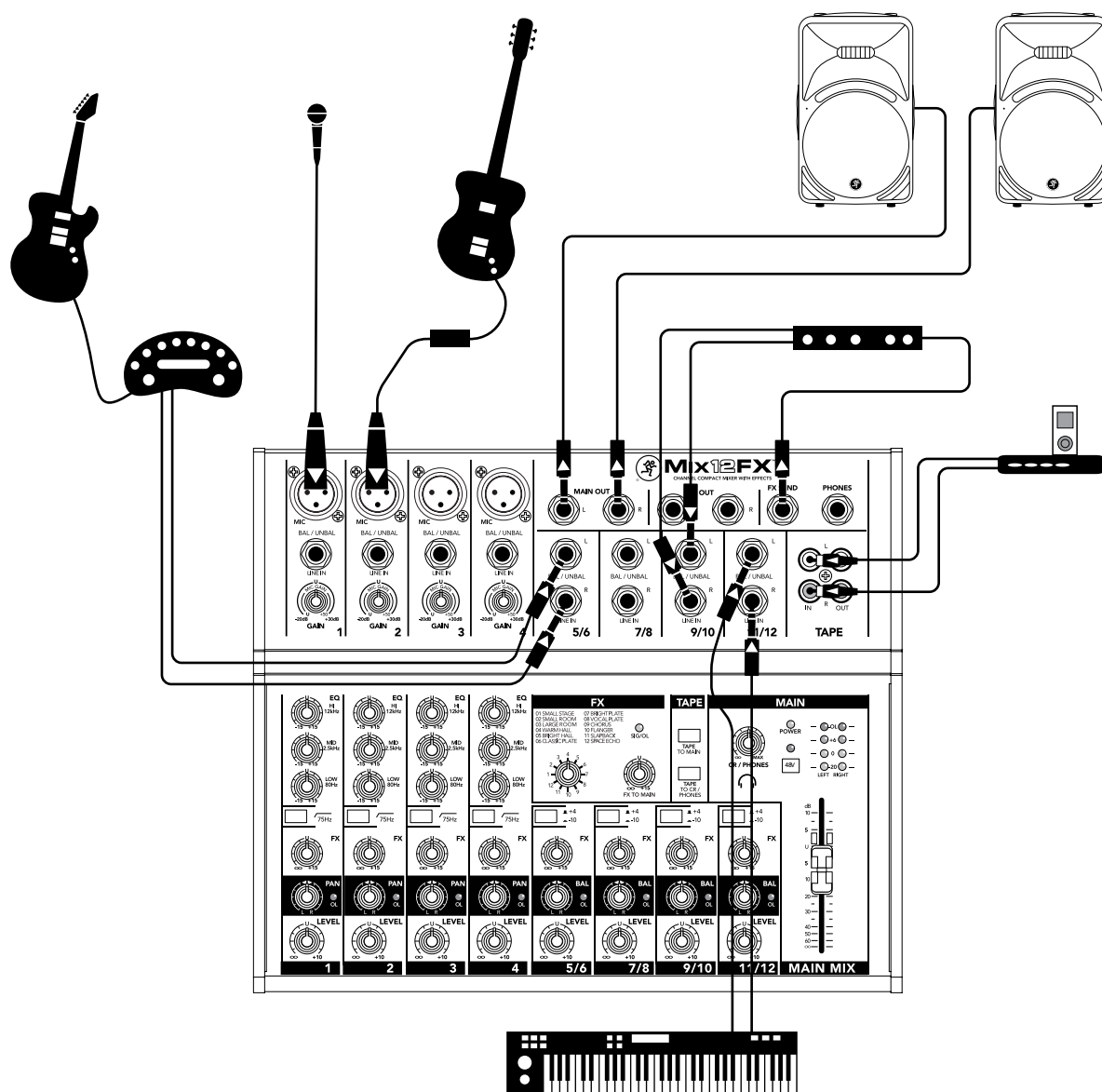
まず、本書の冒頭にある「安全のために」をご覧ください。
次に詳細についてご一読ください。

1. ミキサーは清潔で湿気の少ない場所に設置してください。
2. ケーブルを接続する前に全てのノブが最小の位置にあることを確認します。チャンネルEQとPanはセンターに設定します。
3. 全てのボタンが解除されていることを確認してください。
4. 電源コードを抜いた状態でミキサーのメインアウトとパワーDSPスピーカー(またはパワーアンプ)に接続します。
5. リアパネルのコネクターに電源コードを奥までしっかり差し込み、もう一方の端を電源コンセントに接続してください。このミキサーは100V専用モデルです。
6. パワースピーカー(またはパワーアンプ)の電源を入れます。
7. 下記のような音源をミキサーに接続します。
 - ・マイク入力に接続したマイク(コンデンサーマイク使用時はファンタム電源を入れる)
 - ・キーボード、ドラムマシン、CDプレーヤーのようなラインレベル機器
8. 音源のレベルは通常使用時と同じようなレベルに設定しておいてください。
9. チャンネルレベルノブをユニティ(U)の位置にセットします。
10. メイン出力をちょうど良いリスニングレベルまでゆっくりと上げます。
11. 他のチャンネルに対しても手順7-9を繰り返します
12. 必要に応じてチャンネルEQを使用してください。
13. チャンネルレベルを調整してベストミックスを作ります。使用していないチャンネルのゲインノブとレベルは最小にします。
14. 本番中ピークでチャンネルのOL LED(オーバーロードLED)が点灯したら、消えるまでゲインノブを下げてください。

その他の注意

- ・長時間、大音量で音楽を聴くと難聴の原因となる恐れがあります。
- ・一般的にミキサー(または他の音源)の電源を最初に入れ、次にサブウーファー、最後にスピーカーの電源を入れます。電源を切るときはそれとは逆にスピーカーの電源を最初に落とし、次にサブウーファー、最後にミキサーの電源を落とします。これにより突発的なノイズがスピーカーから流れることを防ぎます。
- ・梱包箱と同梱物は大切に保管してください。

接続例

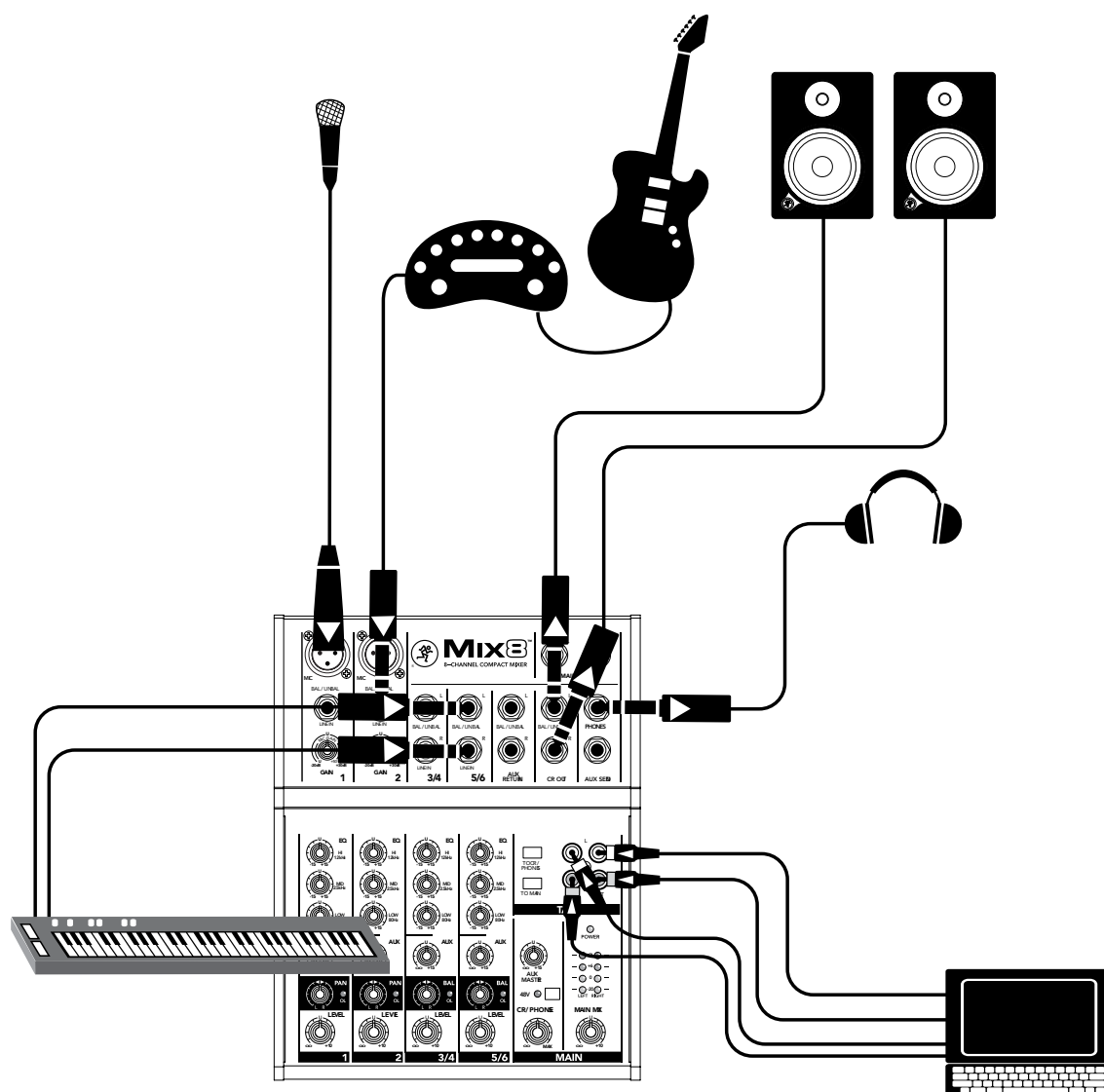


Live PAの現場でのMix 12FXの使用例です。

マイクはチャンネル1 マイクインットへ接続されています。リズムギターはダイレクトボックス (DI) を経由してチャンネル2へ、リードギターはステレオエフェクトプロセッサーを経由してチャンネル5/6へ、シンセはチャンネル11/12のラインインットへ接続されています。

FX SENDジャックから外部エフェクトプロセッサーへ信号を送り、チャンネル9/10ラインインットに戻ってきます。セットの合間のBGMを再生するMP3プレーヤーはRCA Tapeインットへ接続し、1/4" L/RメインアウトにはパワードスピーカーのSRM450v3のペアが接続しています。

レコーディングシステム



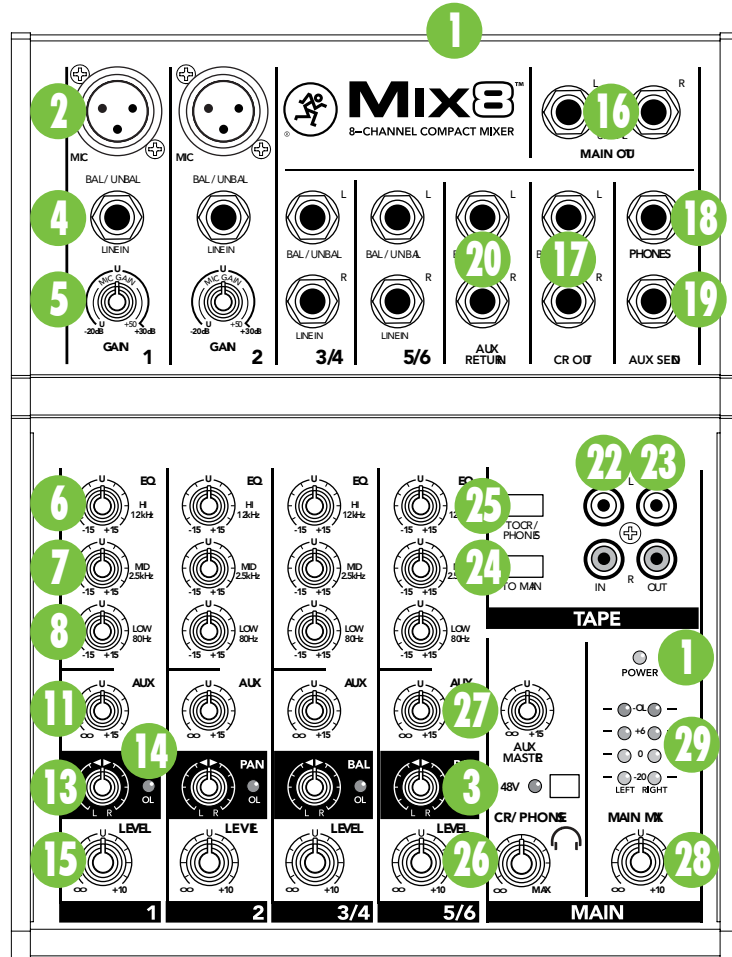
レコーディングミキサーとしてMix8を使用する例を紹介します。

今回の例ではマイクをチャンネル1のマイクプリアンプに接続、リードギターはアンプシミュレーターを通してチャンネル2のラインインプットへ接続、シンセはチャンネル5/6のラインインプットへ接続します。

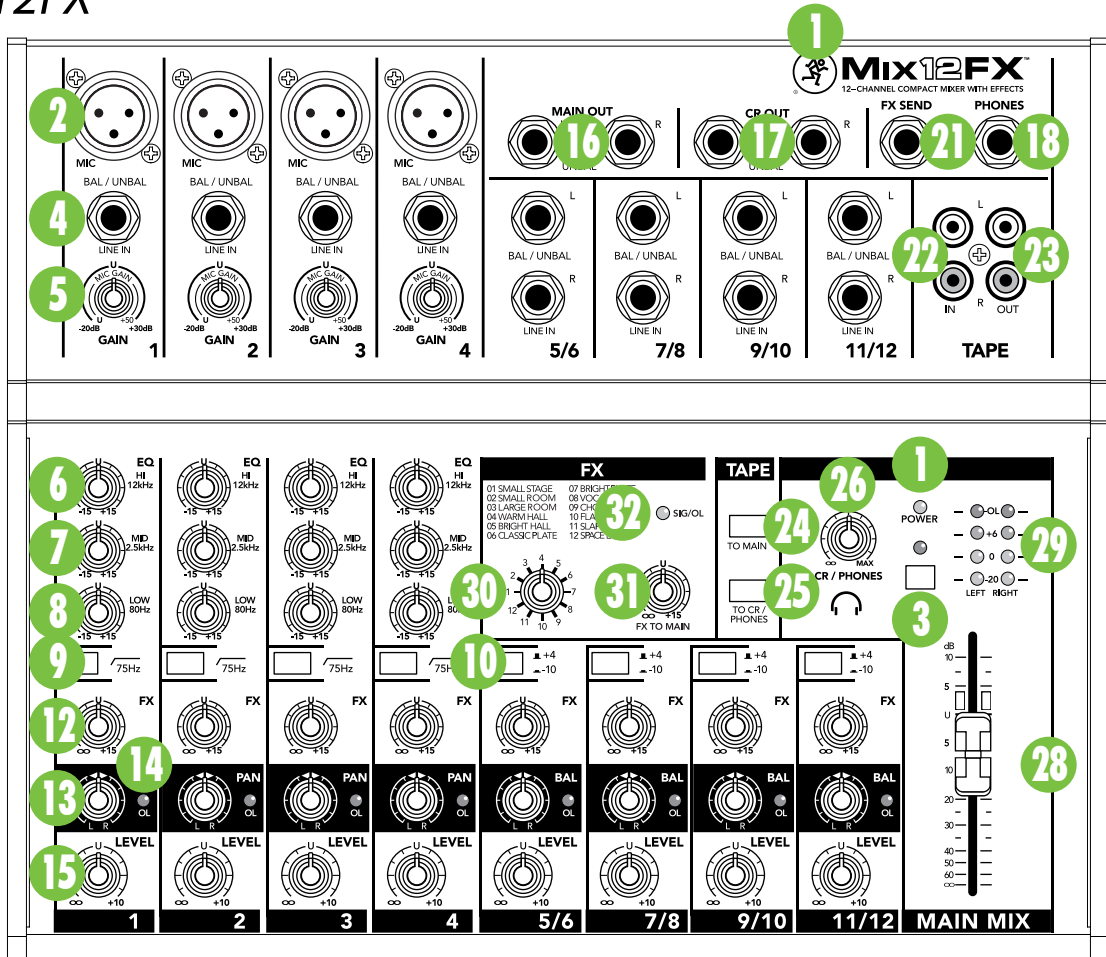
スタジオモニターのパイアはコントロールルームアウトと接続。

RCA Tapeインプット、アウトプットはノートPCと接続します。これで、録音した音は接続を変更することなく、再生できます。

Mix5 • Mix8



Mix12FX

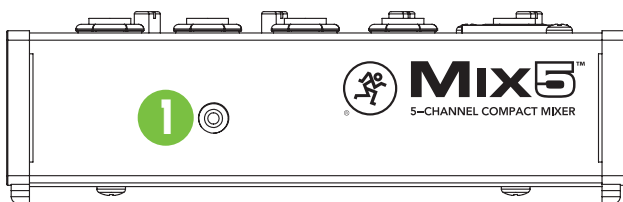


フロント / リアパネルの機能

誤解を恐れずに言うと、ここは全てを接続するところです。マイク、ラインレベルの楽器やエフェクター、ヘッドフォン、そしてPAシステムや録音用ノートPCなどの全ての配線はここで行います。

1. 電源コネクタ とLED

ここに付属の外付けAC電源アダプターを接続し、ミキサーに電源を供給します。まずはじめにAC電源をミキサーに接続し、その後プラグをミキサーの仕様に適合する電源コンセントに差し込みます。ミキサーは自動的に電源がオンになりLEDが点灯します。



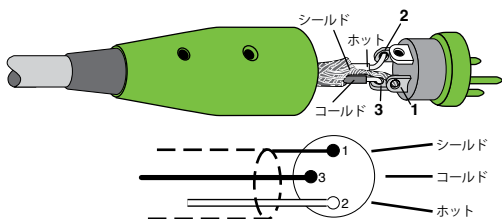
本体付属の電源アダプターを使用してください。

2. マイクインプット

このXLRメスコネクタは、XLRタイプのオスコネクタが付いたマイクやラインレベルの機器なら、ほとんどすべてのソースを接続できます。

Balanced XLR Input Connector

- 1番ピン=シールド(グラウンド)
- 2番ピン=ホット(+)
- 3番ピン=コールド(-)



Balanced XLR Input Connector

マイクレベルの信号ならいかなるものでも扱えます。しかし、すべての楽器が直接ミキサーに接続できるように設計されているわけではありません。一般的にギターやベースをミキサーのマイクインプットに接続するには、ダイレクトインジェクション (DI) ボックスが必要です。DIはギターのアンバランス信号を、バランスのラインレベル出力に変換し、インピーダンスをマッチングさせます。

DIを使用することで、干渉や高域のシグナルロスを最小限に抑え、長いケーブルやオーディオスネークで伝送できます。

3. ファンタム電源

現在のプロ用コンデンサーマイクの多くは、ファンタム電源、つまり低電流のDC電圧を必要とします。Mix8とMix12FXのファンタム電源は、パネルのPhantomスイッチで一括コントロールされます(各チャンネルで個別に制御することはできません)。Mix5のXLRにおいては常時+15Vが供給されています。



ファンタム電源は、Mix5は常に供給されており、Mix8、Mix12FXはスイッチで供給するかどうかをコントロールします。ファンタム電源が供給されているときは、アンバランスで接続されるマイクやリボンマイクはMic InのXLR端子に接続しないでください。

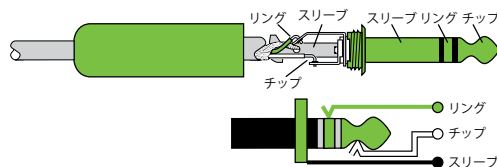
他の各種楽器からの出力も、ファンタム電源が供給される端子に接続しても問題ないことを確認できない限り、Mic InのXLR端子に接続しないでください。

4. ラインインプット

1/4インチジャックは、あらゆるレベルのバランスまたはアンバランスのソースを受けることができます。Gainノブを調整することで-20から+30dBまでのゲインに対応可能で、実質的にあらゆるソースを受けることができます。TRSはチップ-リング-スリーブの略で、ステレオ1/4インチのプラグに3つの接点があります。ケーブルは、下図のように、AES (Audio Engineering Society) の規格に従って配線してください。

Balanced 1/4" TRS Connector

- スリーブ=シールド(グラウンド)
- チップ=ホット(+)
- リング=コールド(-)



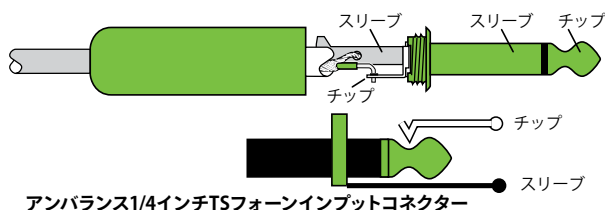
Balanced 1/4" TRS Connector

TSはチップ-スリーブの略で、モノラルの1/4インチプラグに2つの接点があります。ケーブルは、下図のように、AES (Audio Engineering Society) の規格に従って配線してください。

Unbalanced 1/4" TS Connector

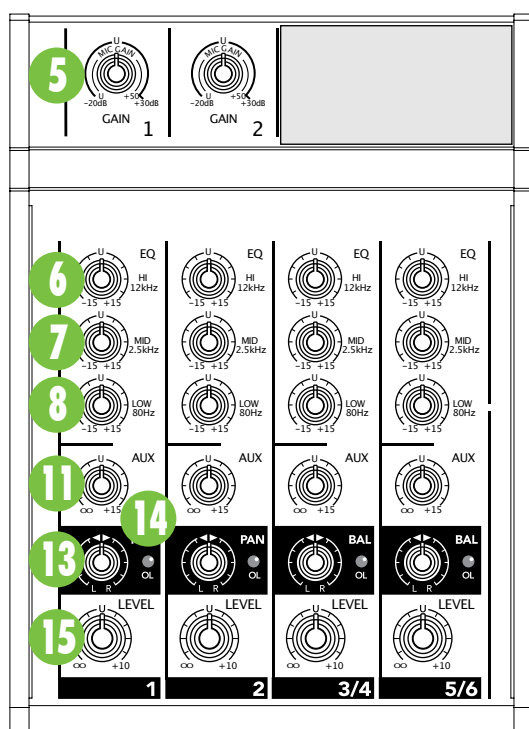
スリーブ=シールド(グラウンド)

チップ=ホット(+)



5. ゲイン

このコントロールはチャンネルセクションのいちばん上にあります。Gainノブはマイク及びライン入力の入力感度を調整します。これで外部から入ってきた信号を、最適な内部動作レベルに調整します。

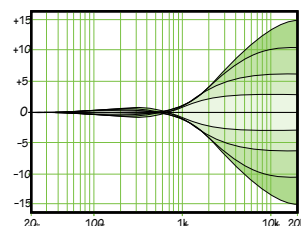


2- Band EQ, 3-Band EQ

2バンド、または3バンドEQ。Lowは80Hzのシェルピング、Midは2.5kHzに設定されたピーキング、Highは12kHzのシェルピングです。シェルピングとは指定した周波数を超える帯域をブーストまたはカットする回路です。たとえばLow EQノブを右方向に15dB回すと、80Hz以下の低い周波数までをブーストできます。一方、ピーキングは中心周波数(2.5kHz)の周辺が増減します。

6. Hi EQ

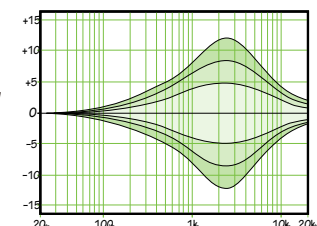
Hi EQは12kHzを15dBまでブーストまたはカットするもので、センタークリックの位置でフラットです。シンバルにシズルを加えたり、全体的な透明感を高めたり、キーボード、ボーカル、ギターのエッジを強調します。摩擦音を除去したりテープのヒスノイズを隠すときは少し下げてください。



High EQ

7. Mid EQ [Mix8、Mix12FXのみ]

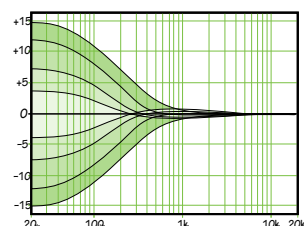
Midはミッドレンジの略です。このノブで 2.5 kHz を中心に最大 15 dB のブーストまたはカットが可能です。センターポジションでフラットとなります。



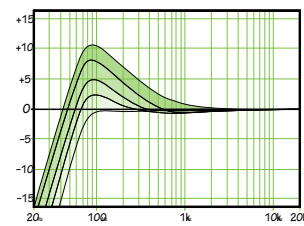
Mid EQ

8. Low EQ

80 Hz 以下の帯域を最大15 dBカットまたはブーストします。センターのポジションでフラットです。この周波数帯域を強調するとバスドラムやベースギター、ファットなシンセサウンド、男声などにパンチが加わります。Mix12FXのローカットスイッチを併用すると不必要な低音ノイズを排除した上で LOW EQ をブーストすることが可能です。



Low EQ



Low EQ with Low Cut

節度のあるイコライジング

過度のEQ操作は混乱を導きます。このミキサーのイコライジング回路が強力なものとなっているのは、時としてそれが必要とされるからです。例えばすべてのチャンネルのEQを最大に設定したらミックスは台無しとなるでしょう。ノブはブースト方向だけでなくカット方向にも設定できます。有名なエンジニアに3dB以上のイコライジングを施す人はほとんどいません。3dB以上の設定が必要であると思われる場合、マイクを移動したり、他の種類のマイクと交換してみたりなど、もっと良い別の解決方法があるはずです。

9. Low Cut スイッチ [Mix12FXのみ、channels 1-4]

ハイパスフィルターとも呼ばれるこのスイッチは、75Hz以下の低域を18dB/octの割合でカットします。バスドラム、ベースのマイク録りや低域をたっぷり含んだシンセパッチ以外のあらゆるサウンドにLow Cutを使うことをおすすめします。ここまで低い帯域は通常、フィルタリングしてしまった方が輪郭がはっきりしたよいサウンドになります。そればかりか、Low Cutはライブでハウリングが起きる可能性を抑えたり、アンプの消費電力を抑える役にも立ちます。Low EQを追加することでボーカルにLow EQを安全にかけることができます。多くの場合、低域シェルビングEQは声に対してかなりメリットがあります。問題はLow EQをかけるとステージノイズやマイクのハンドリングノイズ、ポップノイズをブーストしてしまうことです。ローカットがこうした問題を排除してくれるので、心配なくLow EQを加えられます。

10. +4 / -10 スイッチ [Mix12FXのみ、channels 5/6 - 11/12]

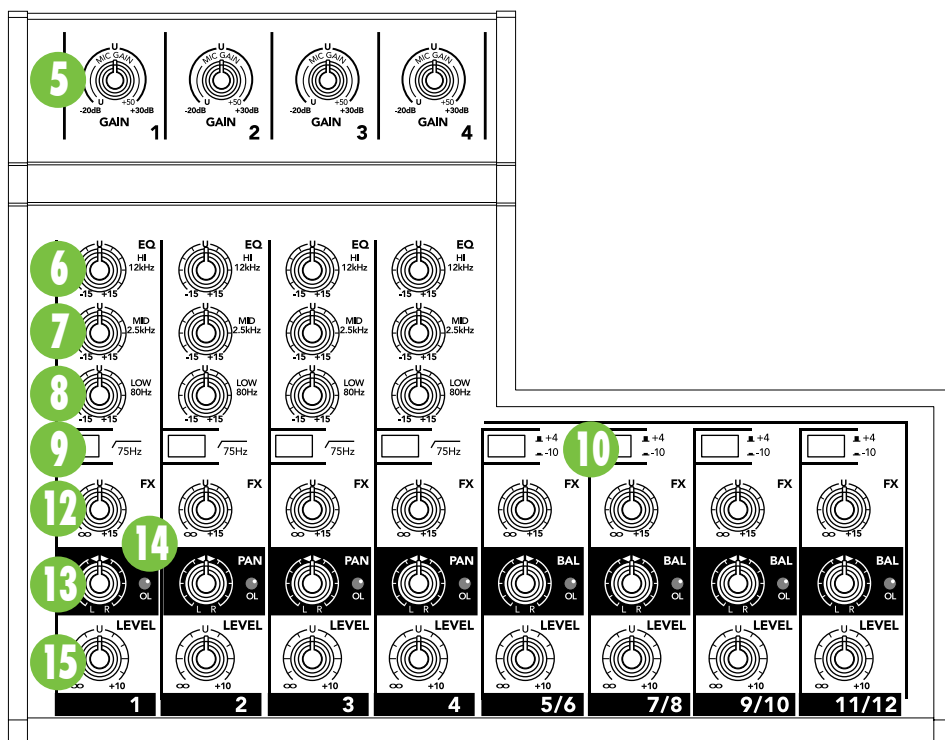
この2ポジションスイッチを使用してチャンネル5/6～チャンネル11/12のインプットレベルを設定します。スイッチを押込むと+4dB（バランスインプット）、スイッチが押されていない時は-10dB（アンバランスインプット）になります。+4dBu基準レベルの業務用機器では+4dBu、-10dBVのコンシューマーモデルでは-10dBにセットするとよいでしょう。

11. Aux [Mix8のみ]

このノブは各チャンネルの信号の一部を取り出し、それらをまとめてパラレルエフェクトプロセッサやステージモニターに送ります。Aux Sendはエフェクトセンドやモニターへの送りだけでなく、別ミックスの録音や放送向けの「ミックスマイナス」を作るときにも使えます。Aux センドはPostフェーダーです。

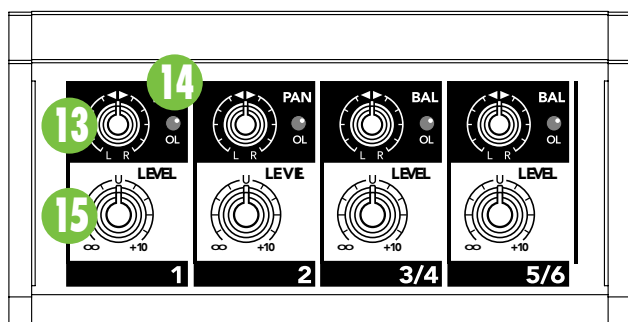
12. FX [Mix12FXのみ]

このノブは各チャンネルの信号の一部を取り出し、それらをまとめて内蔵のエフェクトプロセッサまたはFX SEND経由で外部プロセッサに送ります。ステレオチャンネルからFXに入ってくる信号はLとRチャンネルが合成されたモノラルになります。内蔵FXプロセッサ、FX センドアウトジャックに入ってくるFX信号はFX信号を送っている全てのチャンネルの合成されたものです。内蔵FXプロセッサからメイン出力へ追加される信号はFX to Mainノブで調整します。FXセンドはPostフェーダーです。



13. パン / バランス

Panノブは、出力に送るチャンネル信号の左右の定位を調整します。ステレオチャンネルでは左右のバランスを調節します。



14. OL LED

このLEDはチャンネルに入力される信号のレベルが高すぎる場合に点灯し、信号がOL (オーバーロード) していることを知らせます。LEDが点灯し続ける場合は入力機器のゲイン設定を確認してください。歪みは信号が-3dBに達すると発生します。

15. レベル

このノブはOFFからユニティゲイン、追加ゲイン10dBの範囲でチャンネルのレベルをコントロールします。

16. メインアウト

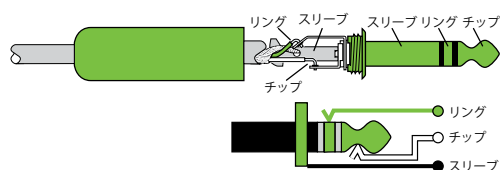
この1/4" TRSバランス/アンバランス出力はメインミックスを送り出します。パワーアンプのラインレベル入力へ接続してください。TRSはチップ-リング-スリーブの略で、ステレオ1/4インチのプラグに3つの接点があります。ケーブルは、下図のように、AES (Audio Engineering Society) の規格に従って配線してください。

Balanced 1/4" TRS Connector

スリーブ=シールド(グラウンド)

チップ=ホット(+)

リング=コールド(-)



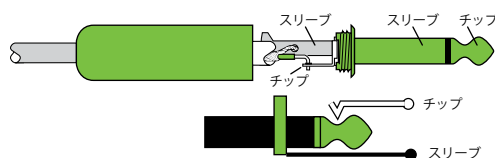
Balanced 1/4" TRS Connector

TSはチップ-スリーブの略で、モノラルの1/4インチプラグに2つの接点があります。ケーブルは、下図のように、AES (Audio Engineering Society) の規格に従って配線してください。

Unbalanced 1/4" TS Connector

スリーブ=シールド(グラウンド)

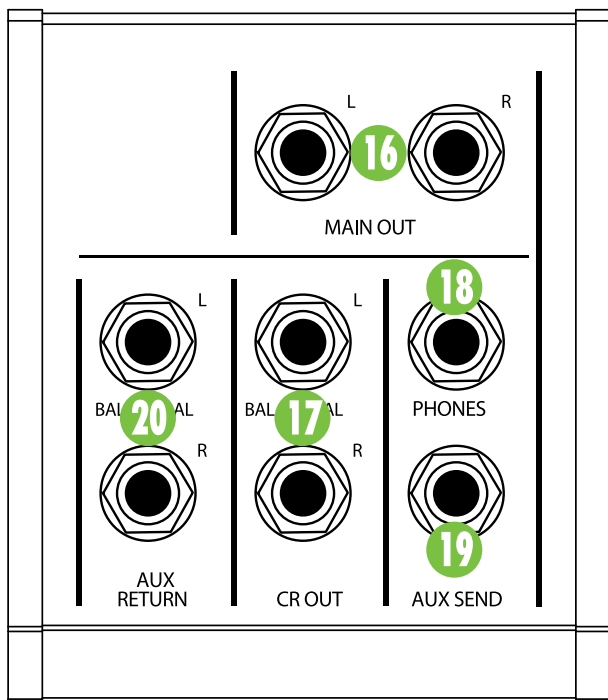
チップ=ホット(+)



Unbalanced 1/4" TS Connector

17. CR Out [コントロールルームアウト] [Mix8、Mix12FX のみ]

この1/4" TRSバランス/アンバランス出力は、メインミックスとは別のサウンドをモニターできます。パワーモニターのパリアンプやヘッドフォンアンプなどを接続して使用します。ボリュームはCR / Phonesノブで調整できます。



18. Phoneアウト

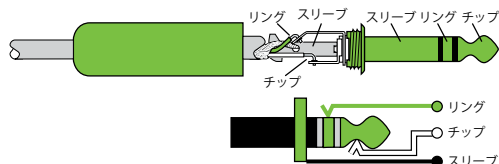
このステレオジャックは、一般的なヘッドフォンを接続します。レベルはCR / Phonesノブを使って調整できます。

Unbalanced 1/4" TRS Connector

スリーブ=シールド(グラウンド)

チップ=L ch

リング=R ch



Unbalanced 1/4" TRS Connector



警告: このアンプは標準的なヘッドフォンをかなり大きな音でドライブできます。恒久的な難聴の原因になる可能性があります。音量には十分注意してください。

19. Aux センド [Mix8 のみ]

この1/4" TRSバランス/アンバランスアウトはステージモニターや外部エフェクトプロセッサへ送る信号を送る際に使用します。

Auxノブは各チャンネルの信号の一部を取り出し、それらをまとめてパラレルエフェクトプロセッサやステージモニターに送ります。

Aux センドはPostフェーダーです。

20. Aux リターン [Mix8 のみ]

ここにエフェクト機器を接続します。シンセをたくさん使う場合は、このインプットを通常のステレオ・ラインインプットとしても使用できます。この回路はステレオ、モノ、バランス、アンバランスいずれのシグナルにも対応します。



21. FX センド [Mix12FX のみ]

1/4インチTRS出力コネクタで、通常はサウンドプロセッサやディレイなどの外部エフェクトプロセッサと接続します。ここから取り出される信号は内部エフェクトプロセッサへ送られる信号と同じものです。

内蔵エフェクトでプロセッシングされたサウンドはメインミックスに追加されます。

全体的なアウトプットレベルはFX to main ノブで調整します。(このノブは内蔵FXに送られる信号のレベルも制御します)

FX sendはポストフェーダーです。チャンネルレベルノブの設定が外部エフェクトプロセッサへ送られる信号のレベルに作用します。

エフェクトプロセッサでプロセッシングされた信号は使用していないスピーアチャンネルへと戻され、エフェクト音とドライ音をミックスします。オリジナルチャンネルレベルのノブを変更するとバランスを保持しながらレベルを操作できます。

22. Tape インプット

テープレコーダーの出力を、RCAケーブルでここに接続します。このジャックはミックスを再生するときに便利です。ミックスを確認した後で、パッチをし直したりミキサーのレベルを変更することなく、他のパスを聞くことができます。MP3プレーヤーなどを接続して転換時に音楽を再生することもできます。RCAプラグはアンバランスです。信号はセンターピンに、グラウンドやシールドはエッジのガasketに接続します。

Unbalanced RCA Connector

スリーブ=シールド(グラウンド)

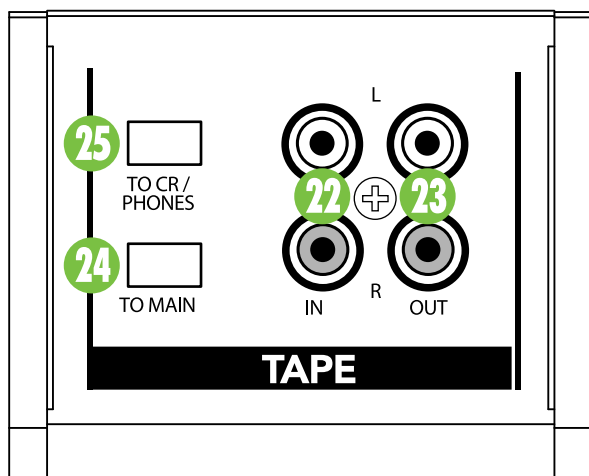
チップ=ホット(+)



Unbalanced RCA Connector

23. Tape アウト

メイン出力を取り出すアンバランスのRCA出力。レコーダーの入力に接続して録音も行えます。



24. Tape to Main

Tape Inから入力された信号をMainMixに送ります。



警告: Tape to Mainボタンを押すとTape InとTape Outが繋がリ、ループする可能性があります。ルーティングに注意してください。

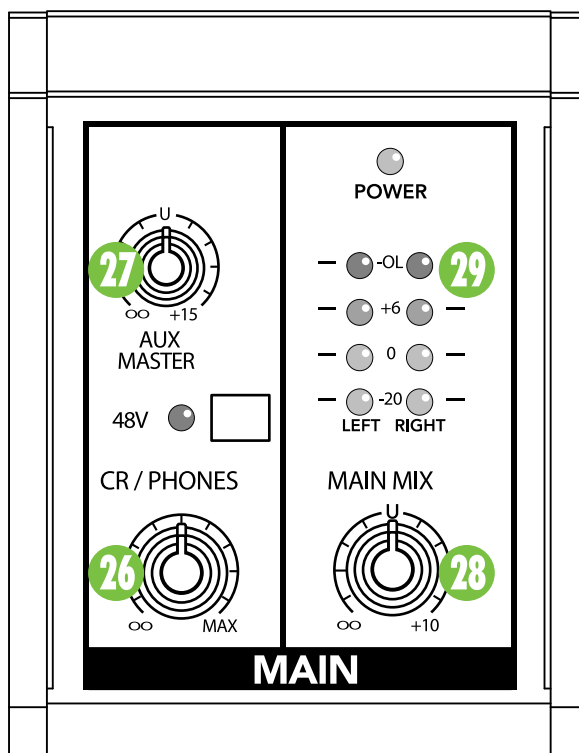
25. Tape to CR / Phones

このボタンを押すとTape Inから入力された信号をCR / Phonesアウトへ送ります。

このスイッチが突き出した状態のとき、CR、Phones、メーターはMain Mixコントロールを経由した信号を受け取ります。このスイッチを押すとCR、Phones、メーターはMP3/C-D/Tapeインプットからの信号を受け取ります。セットの合間のBGMを視聴したりキューを出したりする場合には特に有効です。



警告: スイッチを押す前にCR / Phonesノブを絞ってください。



26. CR / Phones

このノブはステレオコントロールとヘッドフォンの両方のレベルをコントロールします。新しく追加されたソースを調整する際は、追加のソースのノブが最小の位置にあることを確認してください。

コントロールルームアウトから出力されるサウンドは、追加のメインミックスとしても使用できます。さらに、専用のレベルコントロールが可能です。

27. Aux Master [Mix8のみ]

このノブはAux sendから出力される直前のAux sendの全体的なレベルをコントロールします。

このコントロールは絞りきられた状態でオフ、センターポジションはユニティーゲイン、回しきると15dBのゲインを追加します。

28. メインミックス

このノブでメインアウト、Tapeアウトへ送る信号のレベルをコントロールします。ノブが絞られていない全てのチャンネルとAux Returnの信号はメインミックスへと送られます。

Main Mixノブは左に回しきるとOFF、センタークリックの位置でユニティゲイン、右に回しきると10dBの追加ゲインを提供します。曲の最後を最高のフェードアウトで終わらせたいときにはこのノブを操作してください。



Mix12FXにはメインノブがありません。そのかわりにメインフェーダーが配置されています。基本的にフェーダーは時計回り/反時計回りに回すノブより直感的な操作性に優れています。

29. メーター

0dB LEDはアウトプットレベル 0dBu(0.775V RMS)に相当します。OL LEDはアウトプットが+18dBuに達すると点灯します。すぐに信号が破綻することがないようにマージンを設けていますがOL LEDが点灯した場合はすぐにレベルを下げてください。

メーターは通常メインミックスレベルの後段のメインアウトのレベルを表示します。しかしTape to Control / roomスイッチが押されているときはメーターはそれらのレベルを表示します。

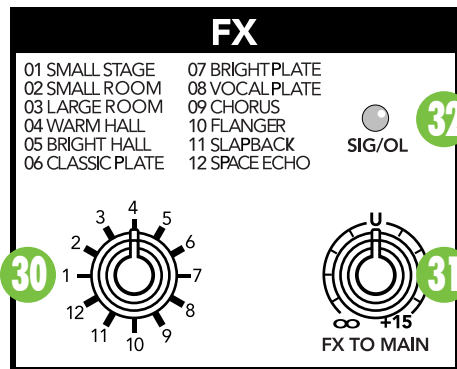
メーターでピークLEDが-20~+6dBの間で点灯するように調整すると最適なミックスが得られます。多くのアンプは+10dB付近からクリップします。現実的にはピークを0と+6dBの範囲内に抑えるようにしてください。

メーターで表示されるレベルが高すぎると歪みが発生します。低すぎるとSN比が悪くなります。メーターを確認しながら、最適なレベルに調節し、次にアンプのレベルコントロールで全体的の音量を調整します。そうすることでSN比は最良の値になります。

しかしメーターはただのツールであるということも忘れないでください。メーターを見ることでレベルが想定内であると確認できますが、常にそれを監視する必要もありません。

FX [Mix12FX のみ]

Mix12FXは12プリセットを含む内蔵エフェクトプロセッサを搭載しています。このエフェクトプロセッサへ送る信号は各チャンネルのFXセンドで調整します。内蔵エフェクトプロセッサからメインアウトへ追加される信号はFX to Mainノブで調整します。



30. プリセットセレクト [Mix12FX のみ]

このつまみでご希望のプリセットエフェクトを選択します。

31. FX to Main [Mix12FX のみ]

内蔵エフェクトプロセッサからの信号はこのノブを通してメインミックスフェーダーへ送られます。この信号にはエフェクト音(Wet)が含まれ各チャンネルからの原音(ドライ)とミックスされます。このコントロールは絞りがきられた状態でオフ、センターポジションはユニティゲイン、回しきると15dBのゲインを追加します。

32. FX Sig / OL LED [Mix12FX のみ]

このデュアルカラーLEDはFXシグナルが入力されると緑色に点灯します。FXシグナルが-20dB以上あると点灯し続けます。FXシグナルのレベルが高すぎるとデュアルLEDは赤く点灯します。LEDが赤く点灯し続けると歪みが発生するので常に点灯しているようであれば各チャンネルのFXノブが入力機器に対して適切なレベルに調整されているかを確認し、必要に応じてFX to Mainノブを絞ってください。

サービスについて

問題が発生した場合は、下記の「トラブルシューティング」を参照して問題点をご確認ください。下記の内容に沿って状況を確認しても問題が解決しない場合、または明らかに製品が故障している場合は、ただちに使用を中止し、販売店まで修理をご依頼ください。

トラブルシューティング

電源が入らない

- ・ 電源コードの接続を確認、電源ケーブルがソケットの奥までしっかりと挿し込まれているか確認してください。コンセントが電力を供給しているかテスターなどで確認してください。電源タップ等がオンであることを確認してください。

チャンネルのトラブル

- ・ ゲインが適切に設定されているか確認ください。
- ・ ノブは上がっていますか。
- ・ 同じ信号ソースを他のチャンネルに接続し、問題があると思われるチャンネルとまったく同じ設定にしてみてください。
- ・ PANの設定を確認してください。
- ・ EQとLow Cutスイッチの設定を確認してください。

出力がおかしい

- ・ 関連するレベルコントロールは上がっていますか。
- ・ 例えば、左のスピーカーに異常が見られる場合は、左右のコードを入れ替えてみてください。症状の左右が入れ替わらなければ、ミキサー以外に原因があることになります。

ノイズ

- ・ チャンネルフェーダーとステレオリターンのノブを個別に下げてください。ノイズが消えればそのチャンネルまたはそこに接続している機器が問題なので、その機器を外してみます。これでノイズが消えればその機器が原因です。

仕様

ノイズ特性

(20Hz~20kHzバンドワイズ、150 Ω ソースインピーダンス)

全出力 マスターレベル / チャンネルレベル オフ 100dBu

全出力 マスターレベル@ユニティ、全チャンネルレベルオフ -90dBu

全出力 マスターレベル、1チャンネルレベル@ユニティ -85dBu

全高調波歪 (THD)

(20Hz~20kHzバンドワイズ)

マイク入力→メイン出力 0.01% @ +4dBu

減衰、クロストーク

(20Hz~20kHzバンドワイズ)

入力→出力 @1kHz -85 dBu

メインミックスオフ @1 kHz -80 dBu

周波数レスポンス

(マイク入力→任意出力 ゲイン@ユニティ)

+0, -1 dB, 20 Hz to 30 kHz

入力換算ノイズ (EIN)

(マイク入力→インサートセンド出力、最大ゲイン)

150 Ω 終端 -125 dBu [Mix5, Mix8]

-122 dBu [Mix12FX]

CMRR

(マイク入力→インサートセンド出力、最大ゲイン)

1 kHz -70 dB未満

最大レベル

マイク入力(XLR) +18 dBu [Mix5]

+19 dBu [Mix8、Mix12FX]

Aux Returnインプット +16 dBu[Mix8]

他全入力 +21 dBu

全出力 +21 dBu

インピーダンス

マイク入力 2k Ω [Mix5]3.8k Ω [Mix8、Mix12FX]他全入力 10k Ω 以上テープ出力 1k Ω Phone 22 Ω 他全入力 120 Ω アンバランス240 Ω バランス

EQ

高域シェルピング ± 15 dB @ 12 kHz中域ピーキング ± 15 dB @ 2.5 kHz低域シェルピング ± 15 dB @ 80 Hz

ローカットフィルター 18 dB/octave, -3 dB @ 75 Hz

必要電源

[Mix5/8]

Input AC100V、50 / 60 Hz

Output AC18V、600mA

[Mix12FX]

Input AC100V、50 / 60 Hz

Output AC18V、1000mA

寸法

Mix5

高さ 43 mm
幅 140 mm
奥行き 196 mm

Mix8

高さ 53 mm
幅 198 mm
奥行き 244 mm

Mix12FX

高さ 53 mm
幅 297 mm
奥行き 244 mm

重量

Mix5 0.6 kg(電源含まず)

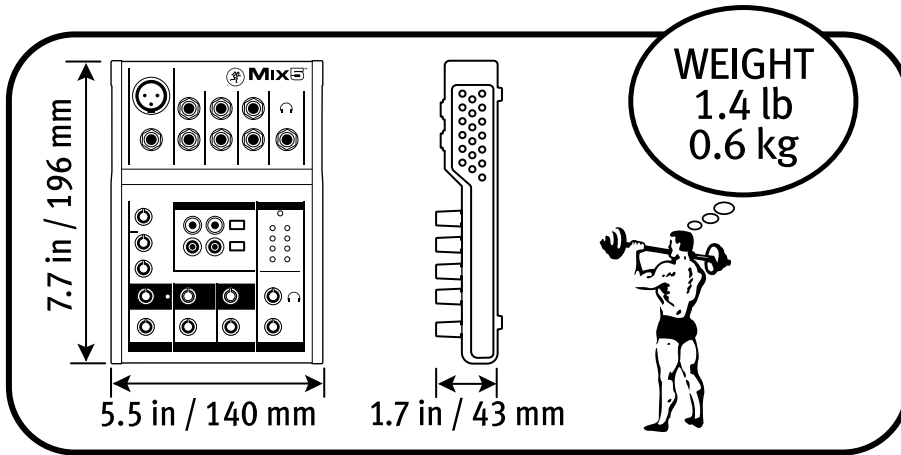
Mix8 1.1 kg(電源含まず)

Mix12FX 1.7 kg(電源含まず)

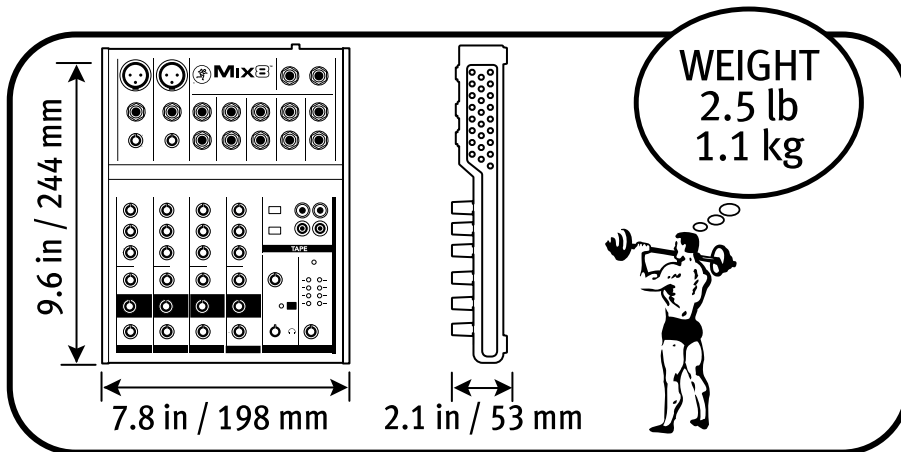
製品の外観及び仕様は予告なく変更することがあります。

「ランニングマン」、「Running man」は LOUD Audio 社の商標です。他の商品名または会社名は各社の商標または登録商標です。

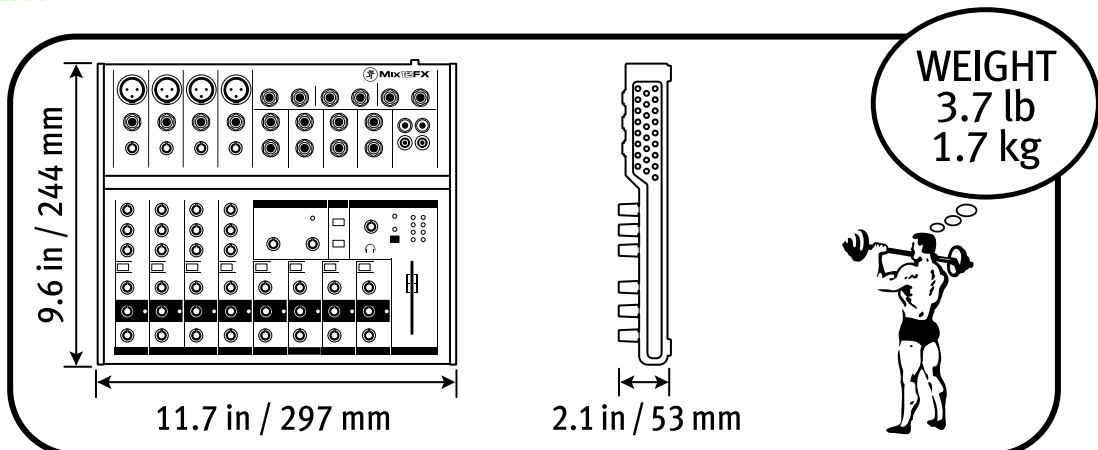
Mix5



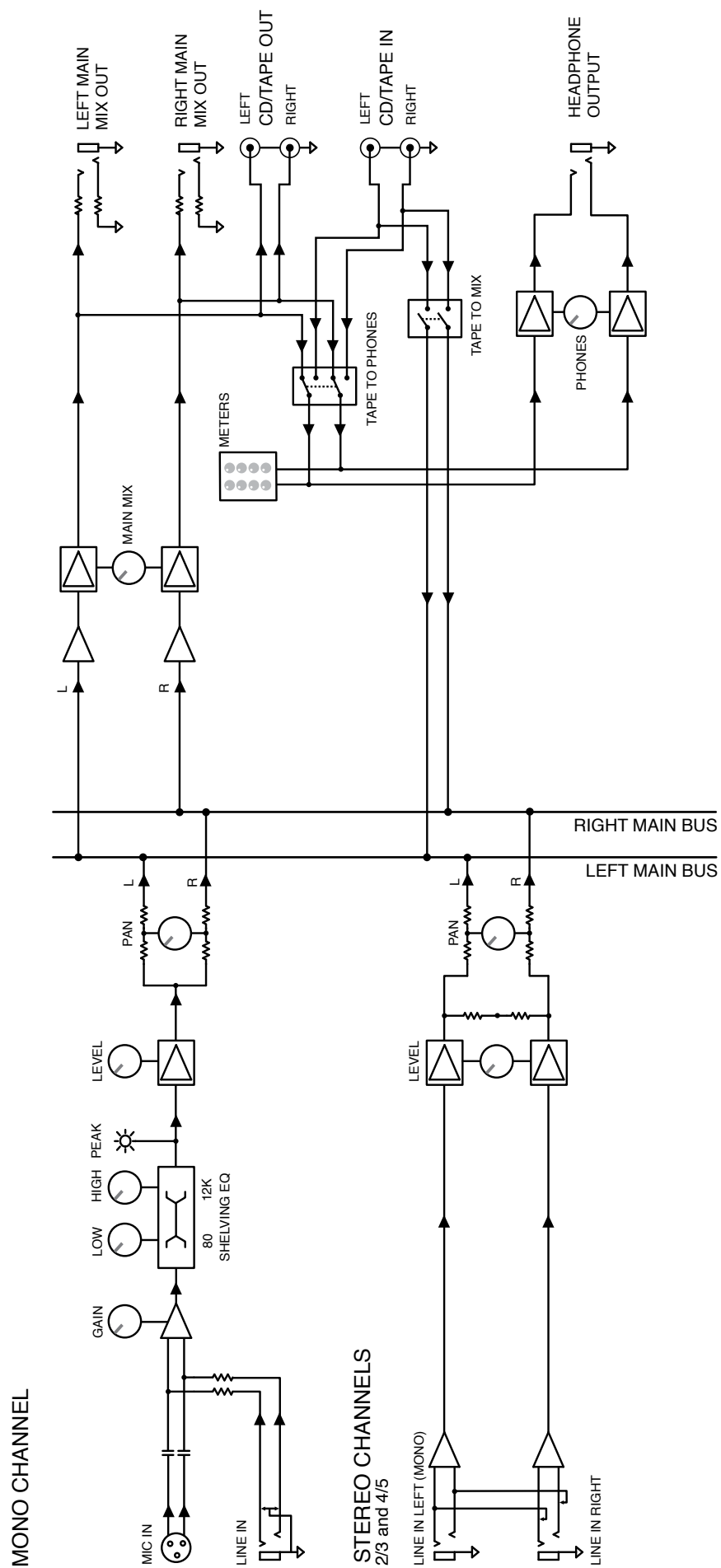
Mix8



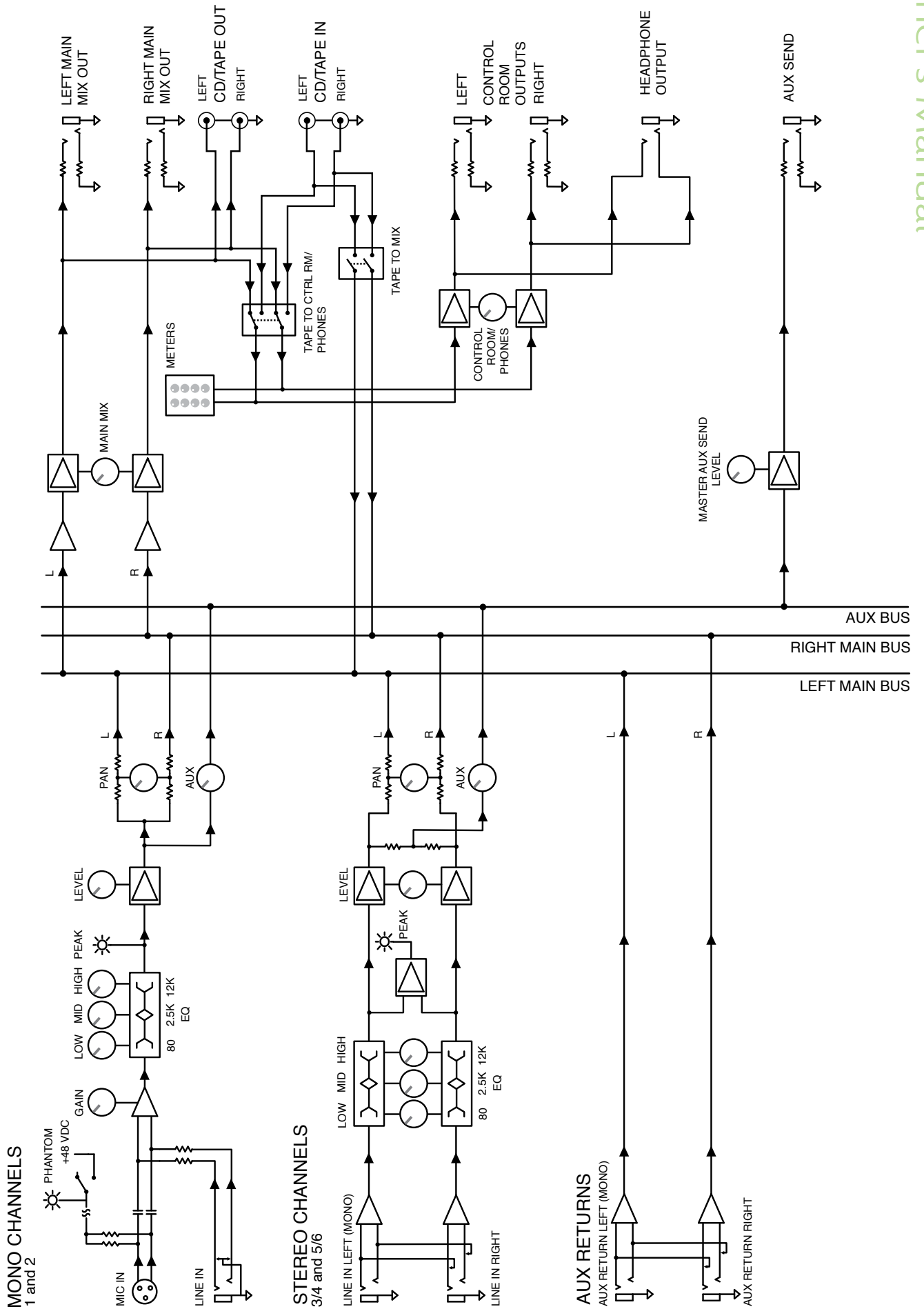
Mix12FX



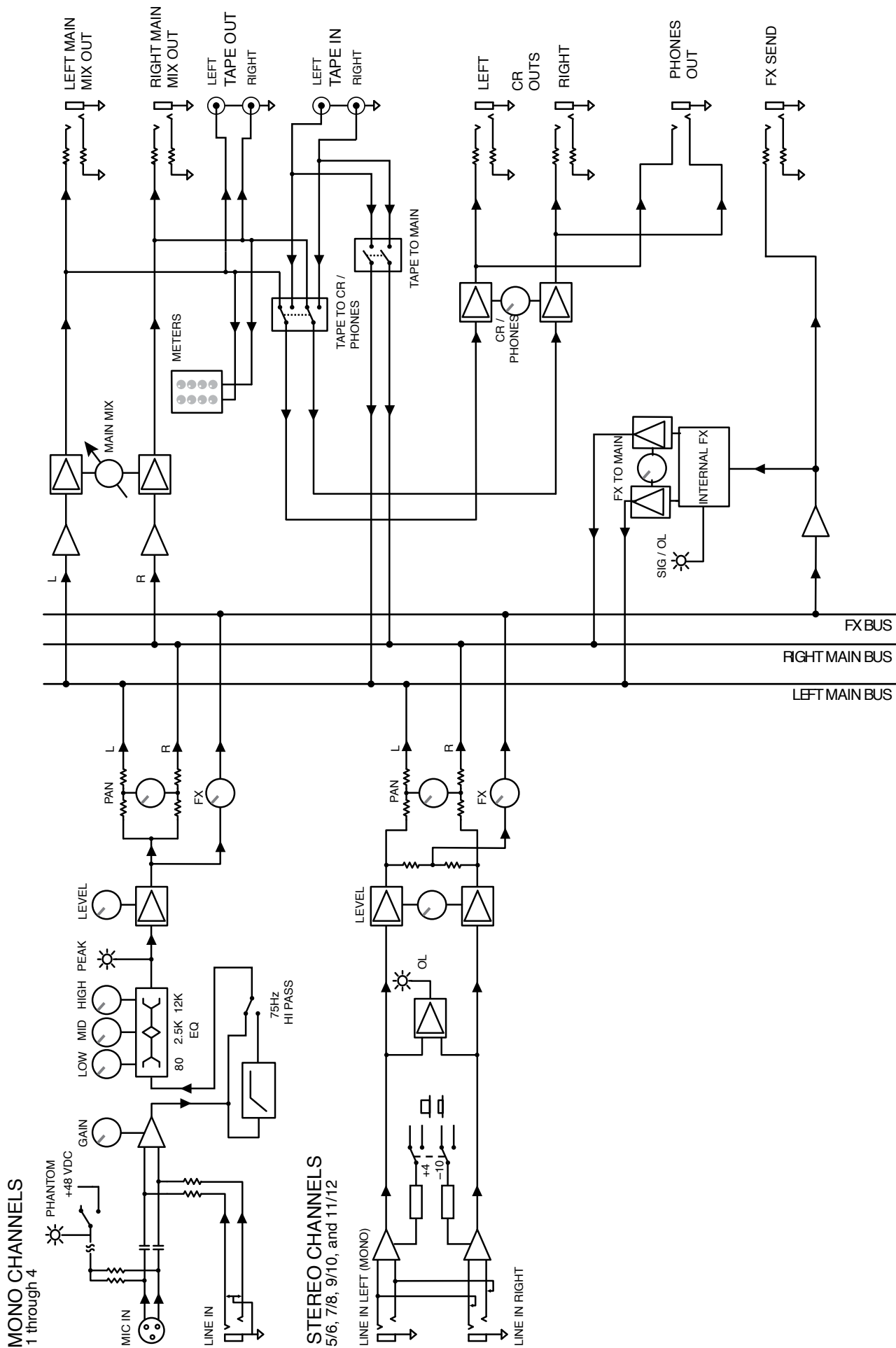
Mix5 ブロックダイアグラム



Mix8 ブロックダイアグラム



Mix12FX ブロックダイヤグラム



エフェクトプリセット

No.		解説	使用例
01	Small Stage	小さいコンサートステージをシミュレートしたプリセットです。短めのリバーブタイムと反響感のある空間を再現。	テンポの速いエネルギー満ちた楽曲で、“ライブ感”のある残響を求めるボーカルやギターに適しています。
02	Small Room	リバーブがほとんどないか非常に少ない一般的な小さな部屋での残響をシミュレート。	ギターアンプやベースアンプにパンチの効いたサウンドを与えます。
03	Large Room	豊かなリバーブが特徴、典型的な広い部屋における残響をシミュレート。	迫力のあるブーミーなキックサウンドに効果的です。
04	Warm Hall	ウォームな音色が特徴、厚手のカーテンやカーペットが施されたコンサートホールの音響をシミュレート。	オーケストラ楽器に、自然なコンサートホールの響きを加えるのに最適です。
05	Bright Hall	散乱する多くの反射音による明るく華やかな響き、広がりのある大きな空間感、長めのプリディレイ、そして鮮やかな音色が特徴。	ボーカルに明るめのリバーブを付与、アコースティック楽器をより生き活きとさせます。
06	Classic Plate	金属板を用いたヴィンテージの機械式リバーブを再現。特徴は、多数の初期反射音があり、プリディレイがありません。	スネアドラムのような打楽器や、タイトなボーカルを豊かにします。
07	Bright Plate	低域が削られた空気感のあるリバーブ。	アコースティックギターのような中域楽器や、スネアドラムやタムなどの打楽器に最適。
08	Vocal Plate	温かみのある音色を持ち、長い残響尾、数多くの素早い反射音、そして非常に短いプリディレイが特徴。	特にボーカル信号に適していますが、厚みのあるドラムトラックにも効果的。
09	Chorus	ソフトで幻想的に、サウンドを厚くしたり、ミックスの中で特定のサウンドを際立たせます。	ギター、ベースの音を引き立てるのに最適。ボーカルのグループハーモニーや合唱に劇的な効果を加えます。
10	Flanger	動きのあるサウンドにより、厚みを加えたり、特定の音を際立たせます。	特にロックンロールにおけるエレキギターに効果を発揮します。
11	Slapback	フィードバックを抑えた長めのディレイ効果。	1950年代のロックンロールのレコードで聴かれるボーカルサウンドを再現します、ドラムやその他のパーカッションにも用いられます。
12	Space Echo	長時間持続し、繰り返されるディレイ効果。	Radioheadのアルバム『OK Computer』の全編で使われています。